

赤磐市における地域活性化のための新拠点整備に係る基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 赤磐市は、岡山県の東の玄関口として一定の交通需要があるものの、道の駅等の休憩施設が無いため、大半が通過交通となっている。
- 上記課題を解決すべく、道の駅を核とした新たな賑わい・交流拠点の整備を進めているが、隣接するエリアにおいて民間投資の機運が先行して高まっており、増加が見込まれる関係人口を市内観光施設等への誘導や農産物等市内産品の購入等の地域活性化へ効果的につなげるため、民間の活動と一体的な整備が求められている。

あかいわ

【調査箇所:岡山県赤磐市】

位置図



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・令和元年6月：「赤磐市都市計画マスタープラン」において『岡山市や山陽ICに近い河本・岩田地区周辺に交通結節点を含む新たな都市拠点を整備』と位置づけ。
- ・令和2年3月：「第2次赤磐市総合計画」において『岡山市や山陽ICに近い河本・岩田地区周辺に交通結節点を含む新たな都市拠点を整備し、賑わいと活力のある魅力的な中心市街地を形成』と位置づけ。
- ・令和5年3月：「赤磐市立地適正化計画 素案」において道の駅計画を位置づけ。

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・民間事業者による商業施設（複合型）の整備（令和7年度～）
- ・宿泊事業者によるホテルの開業（令和7年度～）
- ・農産物販売事業者による農産物直売所の設置・運営（令和7年度～）
- ・NPO法人等による農業マルシェの開催（令和7年度～）
- ・PPP/PFI事業者による道の駅の整備・管理運営（令和7年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・通過交通を関係人口として滞留させるための道の駅整備が必要
- ・民間投資機運の高まりを受け、今後増加が見込まれる関係人口を地域の活性化につなげる拠点として、市内外の方が利用できる交流拠点機能や交通結節機能を備えた新たな都市拠点整備が必要。

(4) 【調査内容】

- ① 道の駅整備に係る需要予測、概略設計、整備効果検討
- ② 道の駅の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・観光・交流拠点機能や交通結節機能を備えた新たな都市拠点を、民間の投資活動と一体的に整備することで、市民や観光客、民間事業者の活動をより活発化させ、増加が期待される関係人口を地域の活性化により効果的につなげる効果が期待できる。

道の駅整備イメージ図



新拠点形成イメージ図

